



翔鷹

アブダビ日本人学校 学校だより

令和4年度

3月号

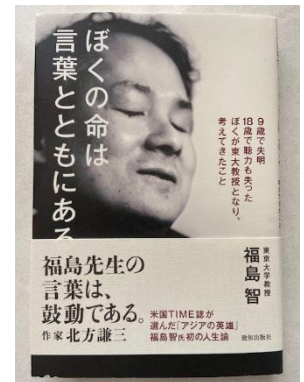
R5.3.1発行

作成：教頭

今の君に伝えたい

教頭 佐藤 康二

都内の学校にいた頃、東京都は道徳教育推進のため「道徳授業公開」の実施を各校に課していた。Jリーガーやプロ野球選手、学者やタレント、五輪メダリストを招き、児童生徒の心に響く道徳講演会をせねばならない。これが各学校には重く悩ましい仕事だった。わずかな謝礼金で講演に来てくれる有名人などいないからだ。当時ベストセラーだった右の本を見て「この人、来てくれないかなあ。」無謀な望みを抱き、東京大学福島研究室に、手ぶらで突入し、無礼な依頼を試みた。全盲ろうの福島先生にうまくお願いできず恐縮していると、先生の方からよどみない口調で「私が今、伝えたいことをお話ししましょう。」と、快諾されたのである。



喜んだ私は、道徳公開授業とその年の周年記念講演会を同時開催にして、全校生徒だけでなく保護者、地域そして教育委員会にも来校を呼びかけた。当日体育館には千人以上がつめかけ、大盛況となった。

道徳授業 「今の君に伝えたいこと」 福島 智(ふくしまさとし)先生

生後5ヶ月で眼病を患い3歳で右目、9歳で左目を失明する。18歳のときに両耳も聴こえなくなり、全盲ろう者になる。音の記憶は残っており、自分の声を聴くことはできないが、話す事はできる。バリアフリー研究の世界的権威、全盲ろう者で世界初の大学教授。

・私は、生まれつきの全盲ろうではなく、徐々に障がいが進み、不安と恐怖の中で光や音を失い、18歳で全盲ろうになりました。絶望と失意の底に沈んだ時、母親が指を触り「サトシ ワカルカ？」となぞってくれた。これが指点字の考案開発や、バリアフリー研究の原点になりました。

・父親は中学校教師。全盲ろうになった私を気遣い、将来はマッサージ師になればいいと助言してくれたが、私は強く反発した。私は高校や大学へ行ってもっと勉強がしたかった。みなさん！親や先生の教えは聞いてもいいが、従う必要はないですよ。自分の人生は自分で決めよう！

・高校進学の際に、障がい者を受け入れる施設や職員がいない等の理由で入学できない(合格させない)学校があった。これは差別です。施設を整備し、職員を配置すれば済む。ユニバーサルデザインやバリアフリー推進が教育の課題です。

・人生に絶望して命を投げ出すのは、生きてたくても生きられない人々への冒涇(ぼうとく)です。生きているだけで90点！誰でも「生きている」それだけで意味(価値)があるのです。

会場を見渡すと、児童生徒や地域保護者の目には涙が光っていた。

お礼に合唱コンクールで歌った全校合唱「翼をください」を披露しようとする、なんと福島先生はサプライズでピアノ伴奏をして下さった。まだ目も耳も健常だった頃、ピアノ演奏にあこがれていた福島先生は、この日のために猛勉強、猛練習をされたそうである。

「全校合唱『翼をください』！伴奏者、福島先生！」

心に響く道徳授業だった。

【 3月 March 】		主な行事(3月授業日数8)
1	水	
2	木	学級懇談
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	卒業式
10	金	修了式
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	春休み 3月11日(土) ~4月11日(火) 令和5年度 始業式 入学式は 4月12日(水) です。
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

<3月、年度末で帰任・帰国する先生からメッセージ>

佐藤教頭

あっという間の3年間、夢のようなアブダビ生活でした。コロナ禍日本待機期間のオンライン授業、電子黒板を導入しICT教育を推進できたこと。エミラティと日本人児童生徒が私の授業や剣道教室を「楽しい、面白い!」と言ってくれたこと。ラマダンで断食に挑戦したこと。熱砂の摩天楼アブダビ。ドバイ万博の思い出。広がる砂漠と響き渡るアザーン。今となっては「夢幻の如くなり」です。みなさんに感謝。شكراً! シュクラン!

西尾先生

エミラティのみなさんが日本語で勉強することも、日本のみなさんが異文化の中で生活しながら勉強することも、とても大変なことで、毎日すごいなーと思って見ていました。でも、たくさんの苦勞をするほど、たくさんの喜怒哀樂を経験するほど、みなさんは素晴らしい大人になることでしょう。そう、なつめやしがおいしい実(デザート)をつけるように。マーシャッター! たった1年のアブダビ生活でしたが、充実した日々でした。みなさん、本当にありがとうございました。

藤田先生

エミラティ児童生徒担当の教員として3年間勤務させていただきました。最初の半年は日本からオンラインでの授業でしたが、画面の向こうの「アブダビ」に思いをはせ、学校で初めて子どもたちと対面した時の感動は今でも忘れられません。様々な制約がある中での学校生活でしたが、子どもたちが何事にも前向きに取り組んでくれたことと、保護者の皆様のご理解ご協力のおかげで、コロナ禍の3年間でしたが、楽しい日々を過ごせました。ありがとうございました。

石川先生

思い返すとあっという間の2年間でした。コロナ禍のオンライン授業に始まり、ようやく日常が戻り行事が再びできるまで様々なことがありましたが、どんな状況下でも前向きに受け入れ一生懸命頑張る子どもたちの姿にいつも励まされました。日本人とエミラティの子どもたちが共に学ぶ、パワーあふれる素敵なアブダビ日本人学校の益々のご活躍を楽しみにしています。大変お世話になりました。2年間ありがとうございました。

<翔鷹祭>2月10日(金)全園児児童生徒と保護者ご来賓参観の中、3年ぶり翔鷹祭が開催できました。以下写真は元氣いっぱいの発表と力作の展示作品。

